

第一章

序論

第一章 序論

1-1 本研究の背景

現代社会は地球環境問題に直面しており、早急な対策が必要とされている。これは教育の現場においても必要とされており、小学校では平成 14 年度（2002 年）から実施される新しい学習指導要綱により、『総合的な学習の時間』が新設された。『総合的な学習の時間』とは「（１）地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間（２）国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行える時間」である¹⁾。この『総合的な学習の時間』で、さまざまな環境学習が行われている。

環境学習を行う上で、本研究で注目したいのは「五感」である。「環境問題は、最終的には人間への影響に帰着する」²⁾といわれており、また「視覚（光）・聴覚（音）・嗅覚などの五感は人間の生理活動に大きい影響を与えることがわかっている。さらに最近の脳科学の発達で、五感を通じての外世界の刺激は人間の神経また精神活動にも強い影響をもつことが明らかになりつつある。これは情報化、高速化、高密度化がすすむ現代社会において、まさにこれからの環境問題である。五感を通じての環境問題は単純ではない」²⁾といわれている。このように五感を用いた環境学習が必要とされている。

現代の生活は、映像などの視覚情報が中心で、五感を使うような体験はどんどん少なくなっている。子供の遊びの内容も変化し、五感を育む場もなくなってきている。そのため子供の周辺環境への関心が薄くなってきていると考えられる。さらに、都市開発のために遊び場が少なくなることによって子供の身体や感覚がのびのびと発達する機会が少なくなり、身体の発達が不十分な子供が増加しているという指摘もある³⁾。

これらの問題を解決するために、現在全国の小学校やボランティア団体などがさまざまな環境学習プログラムを実施している。しかし環境学習プログラム集に掲載されている代表的な 32 プログラムから読み取ったところ、全体的に主に使われている五感は視覚と触覚の 2 感覚であった（表 1-1、1-2）。このように、一つのプログラムですべての五感を意識して使うことを前提としているようなプログラムはないといえる。また、これらのプログラムを組み合わせるにしても、すべての感覚を満遍なく使うことは難しいといえる。

表 1-1 宮ヶ瀬環境プログラム集一覧と使われている五感

宮ヶ瀬環境プログラム集(2002年5月版)	五感					output	joint
プログラム名	触	嗅	味	聴	視	表現方法	情報交換
今日の宮ヶ瀬(五感で宝物探し)	○			○		絵・言葉	ワークシート交換
ことばの探偵(言葉から連想して何か探す)		○	×	○	○	採取・言葉	発表
足跡を探せ(動物の足跡を探す)	○	×	×			書き写し	発表
アニマルトラッキング(動物の痕跡を探す)		○	×			言葉	発表
めざせ葉っぱ博士(葉っぱこそすりだし)		×	×	×		こそすりだし・言葉	ワークシート交換
冬の妖精を探せ！(葉痕や冬芽さがし)	○	×	×	×		顔で表現	見せ合い
同じ年をさがせ！(もみの木の樹齢調べ)	○		×			身体で表現	見せ合い
贈る言葉(かれた樹木に言葉を贈る)	○		×	○	○	言葉	発表
森のステンドグラス(落ち葉で作品づくり)		×	×	×	○	作品	発表
この指とまれ(赤とんぼを止まらせる)	○	×	×	×	○	気持ちを表す	発表
感じたことで俳句作り						俳句	発表
植物の名づけの親になる	○	○	×	×	○	言葉	発表
自然の素材を使って自分を紹介しよう	○	×	×		○	言葉	発表
たつ鳥 あとを汚さず(人間の痕跡消す)	×		×		○	なし	活動報告
半年後の宮ヶ瀬(想像して絵を描く)			×		○	絵	発表
落ち葉のペンダント作り			×	×	○	作品	紹介
木の体温測定		×	×	×	○	なし	発表
水源地ゴミウォッチング	×		×	×		記録・集計	発表
袋の中はなに？(それを当てて自然の中から探す)		×	×	×	○	採取	発表
数字探し(自然の中にある数字を探す)						採取	見せ合い
色探し(自然の中にある色を探す)	×	×	×	×		採取	見せ合い
形探し(自然の中にある形を探す)	○	×	×	×		採取	見せ合い

…主に使う ○…使う …少し使う ×…ほとんど使わない

表 1-2 日本環境フォーラム環境プログラム集一覧と使われている五感

日本環境教育フォーラム(水環境)	五感					output	joint
プログラム名	触	嗅	味	聴	視	表現方法	情報交換
ストーンペインティング	○	×	×	×	○	作品	発表
雨は好き？嫌い？			×			感想	発表
水いである森(水マップ)			×	○	○	地図	発表
川の合唱団(川の音を聞く)			×			録音・声で表現	発表
プチ水族館作り	○	○	×	○		採取	発表
プレイバックお絵かき(落ちていた欠片の過去を想像)	○		×	×		採取・絵	ペアで交換
砂の観察(一握りの砂から風景を想像)	○		×	×		絵	発表・展示
海辺アート	○		×		○	採取・絵	発表
古代食にチャレンジ	○	○		×		料理	試食会
ヤナで魚とり	○				○	なし	なし

…じっくり使う ○…使う …少し使う ×…ほとんど使わない

1-2 五感を扱った環境学習プログラムについて

1-2-1 五感を扱った環境学習プログラムの現状

五感を意識して使うという前提で作られた環境学習プログラムはほとんど行われていない現状にあるが、宮城県仙台市立南小泉小学校の総合学習の時間では主に視覚・聴覚・触覚をつかった環境学習が行われた⁶⁾。3年生の総合学習の時間を用い、1年にわたる長期学習が行われた。

環境学習の内容は、五感を使って自分の町を探検し、見たこともない地図を作るというものである(表1-2)。五感に慣れることから始まり、時間をかけてじっくりと五感の学習が行われた。この環境学習では味覚・嗅覚にはあまり触れられていない。

この環境学習では、視覚のグループは視覚だけ調べるという方法だが、発表での情報の共有がしっかり行われているという点でも評価ができる。しかし、1年間という長い期間を使って行う特殊な環境学習のため、実施に大変な手間がかかるというデメリットがある

表1-3 仙台市南小泉小学校での五感学習の流れ

	内容	ねらい
五感WS	・シャボン玉の軌道を絵にする ・でこぼこをスクラッチする ・音のスケッチをする	五感を知る、慣れる
まち探検	「おもしろい形見つけ隊」「でこぼこ調査隊」 「いろんな音集め隊」に分かれて町を探検	視覚、触覚、聴覚を使う
地図作成	探検により見つけたことを用いて見たことのない地図をつくる	・地図に慣れる ・見つけたことの再確認
地図発表	児童や保護者、地元の人の前で作った地図を発表する	・情報を共有する ・人に伝える力をつける

1-2-2 熊野古道における五感マップ手法について

環境教育を行う際、五感は大変なキーワードであり、五感が偏りがちな現状に対し、満遍なく五感をつかうという環境学習プログラムが開発されるのが理想的である。

五感学習プログラムが推奨されていると同時に、環境地図学習プログラムも推奨されている。環境地図学習は子供達に環境について考える力を育て、科学的アプローチの基礎を身につけさせることができる⁷⁾とされているのも理由のひとつである。

そこで本研究で取り上げたいのは、五感学習と地図学習の両方を併せ持った「五感マップ手法」である。五感マップ手法とは、ルート上に参加者自身の五感の各感覚から感じた印象をそれぞれ現地調査して地図に落とすことである。和歌山県の市民ボランティア団体が中高年対象に五感マップ手法を初めて取り入れた。

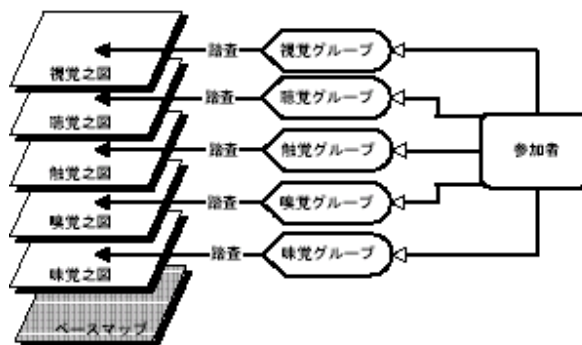


図1-1 熊野古道における五感マップ作成の流れ

1-3 本研究の目的と意義

本研究では五感マップ

手法を参考に、短時間でまんべんなく、地図を使うという五感を扱った環境学習プログラムを開発する。そして五感を用いた環境学習プログラムを行うことによって、五感に対する意識が広がって環境認識のきっかけ作りになるということを検証した上で、五感マッププログラムを環境学習プログラムとして提案することを目的とする。

このプログラムは、時間の限られている学校教育での現場で活用できるという意義がある。また、まちづくりの現場での活用の可能性も考えられる。

1-4 本研究の構成

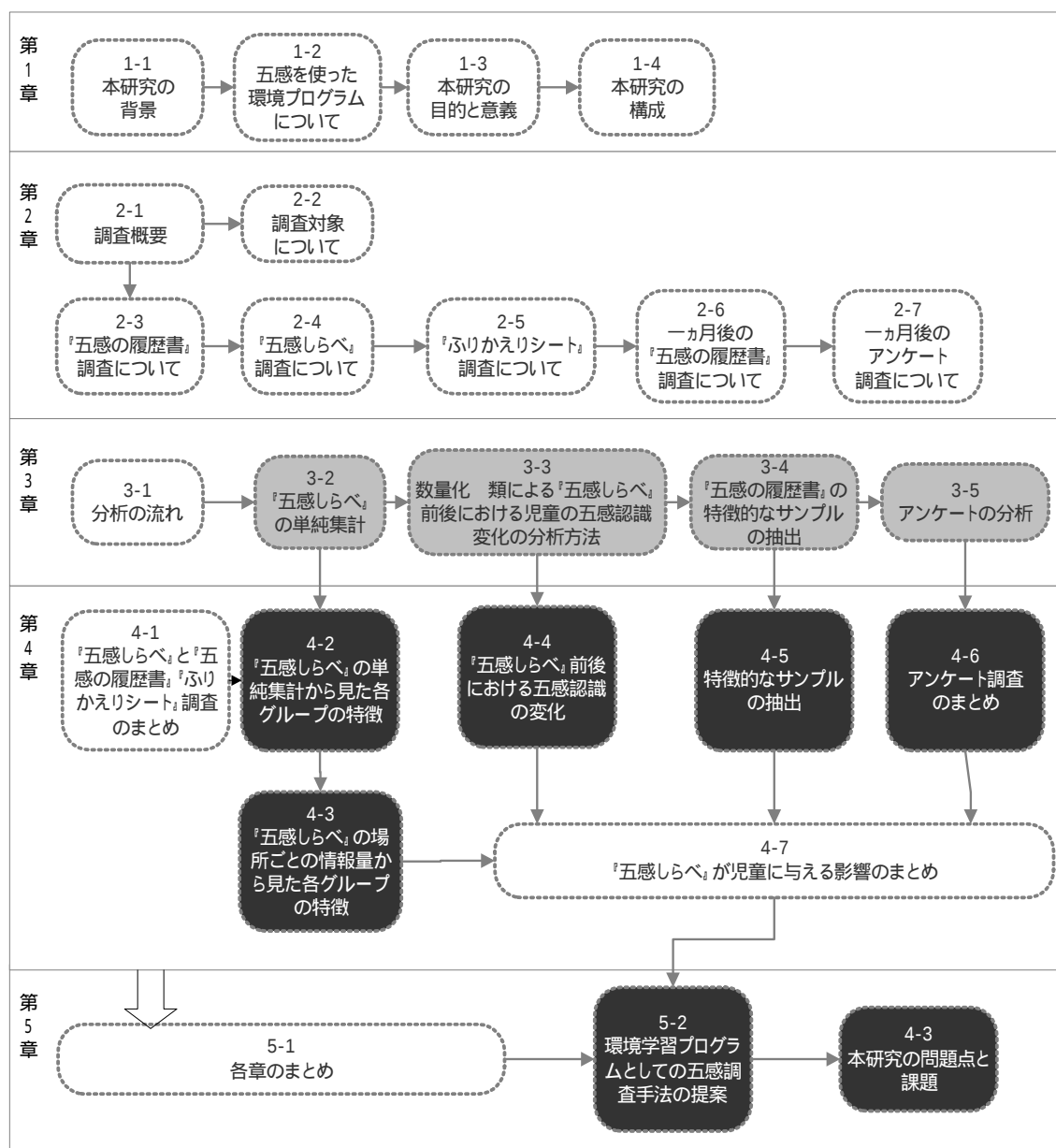


図 1-2 本研究の構成

参考文献

- 1) 文部科学省ホームページ：総合的な学習の時間の新設,
<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/020501.htm> : 2005-1-20
- 2) 国立環境研究所ホームページ：環境研ニュース 22(1),
<<http://www.nies.go.jp/kanko/news/22/22-1/22-1-01.html>> : 2005-1-20
- 3) 斎藤孝・山下柚実：「五感力」を育てる,中公新書,pp31-33,2002
- 4) 神奈川県立宮ヶ瀬ビジネスセンター：宮ヶ瀬環境教育プログラム集,2002
- 5) 日本環境フォーラム：「総合的な学習の時間」に役立つ川や海などの水辺でできる自然体験プログラム集,2003
- 6) 仙台市立南小泉小学校ホームページ：探検！発見！南小泉,
<<http://www2.sendai-c.ed.jp/~nansho13/kodomoHP/thm/>> : 2004-9-14
- 7) 本松宏章・氷見山幸夫：小学校の社会科・総合学習における環境地図学習展開の意義と展望,北海道大学生涯学習教育研究センター紀要 第三号,2000